

Ведомо Соиноевскому

ドストエフスキー全集 15

書簡集 I

小沼文彦 訳

筑摩書房 刊

ドストエフスキー全集 第15巻

昭和47年1月15日初版第1刷発行

訳者 小沼文彦

発行者 竹之内静雄

発行所 株式会社 筑摩書房

東京都千代田区神田小川町2-8
電話 東京 (291) 7661 (代表)
郵便番号 101-91
振替 東京 4 1 2 3

(分類) 0398 (製品) 77115 (出版社) 4604

目次

書簡集 I

一八三二年(十一歲、一通)	七
一八三三年(十二歲、一通)	八
一八三四年(十三歲、一通)	九
一八三五年(十四歲、六通)	一〇
一八三七年(十六歲、八通)	三
一八三八年(十七歲、五通)	六
一八三九年(十八歲、六通)	四
一八四〇年(十九歲、四通)	五
一八四一年(二十歲、二通)	六
一八四二年(二十一歲、一通)	三

- 一八四三年（二十二歲、五通） 三
- 一八四四年（二十三歲、十通） 六
- 一八四五年（二十四歲、五通） 一〇
- 一八四六年（二十五歲、十三通） 二九
- 一八四七年（二十六歲、七通） 一〇
- 一八四八年（二十七歲、一通） 一五
- 一八四九年（二十八歲、十一通） 一五
- 一八五四年（三十三歲、六通） 一八
- 一八五五年（三十四歲、八通） 二〇
- 一八五六年（三十五歲、十七通） 三六
- 一八五七年（三十六歲、十五通） 三九
- 一八五八年（三十七歲、十三通） 三五
- 一八五九年（三十八歲、三十通） 三九
- 一八六〇年（三十九歲、七通） 四三

一八六一年(四十歳、五通)

四六

一八六二年(四十一歳、五通)

四九

一八六三年(四十二歳、二十五通)

五〇

一八六四年(四十三歳、三十九通)

五五

一八六五年(四十四歳、二十五通)

六七

あとがき

六七

系 図

六八

詳細目次

六九

書簡集
I

凡 例

- 一、書簡の見出しにおいて、名及び父称を示すイニシャルは省略した。ただし、近親者の場合は、関係を示す語と名で表わした。
- 二、書簡の日付けと発信地のうちへ～で示されているものはすべて、書簡集編集者の推定による補足。
- 三、本文のうちへ～で示されているものは、テキストでは省略されている部分。
- 四、本文のうち〔 〕で示されている語句は、ドストエフスキーがあとで抹消したものである。
- 五、金額及び年月日等は算用数字で書かれている場合と、そうでない場合があるの
で書き分けておいた。
- 六、句読点はできる限りテキストどおりにし、あくまでも原文を尊重することにつ
とめた。句切りのない長いセンテンスになっているのはそのためである。

一八三二年(十一歳)

一 父ミハイルへ

ヘダロヴァヤ、一八三二年六月二十九日⁽³⁾

わたしたち一同は父上にこの上なく深い敬意を表明し、父上のお手に接吻いたします。大事な大事なお父様。ミハイラ フォードル ヴアルヴァーラとアンドリニューシャ⁽⁴⁾。

ドストエフスキー四兄弟。一八三二年六月二十九日。

- (1) フォードル・ドストエフスキーの父(一七九一—一八三九)。ウクライナの小村ブラツラフの司祭長の息子として生まれ、神学校を中途退学して生家を飛び出し、モスクワ医科大学に入学、軍医となり一八二一年モスクワのマリインスキー貧民病院の医師となった。一八三七年退職、三九年領地の百姓の恨みを買って虐殺された。アルコール中毒で、痲癩持ちで、しかも吝嗇の父親の影響で、作家の少年時代はきわめて暗いものであった。父の横死の報を耳にしたとき、はじめてフォードルに癲癩の発作が起きたとも言われている。

- (2) 正しくはダロヴォイエ。一八三一年に父ミハイルが購入した領地。農奴百名、面積約五五〇ヘクタール。

- (3) 書簡集編集者の推定による日付けと発信地はすべてへで示されて

いる。

- (4) 子供たちの連名になっているが、句読点が省略されている。

ミハイラは正しくはミハイル(一八二〇—一八六四)。フォードルのひとつの兄で、少年時代から文学に結ばれた兄弟の愛情は終生変わることがなかった。ミハイルは作家としては大成しなかったが、雑誌「時代」(一八六一—一八六三)、「世紀」の編集兼出版者としてフォードルのよき協力者であった。その死後フォードルが遺族の生活を引き受け、一切の負債を肩代りした話によく知られている。

ヴァルヴァーラ(一八二二—一八九三)はフォードルのすぐ下の妹で、のちのカレービン夫人。父ミハイルの死後カレービンはその遺族の後見人となった。この妹は強盗のために非業の死をあげている。

アンドリニューシャ、正しくはアンドレイ(一八二五—一八九七)。のちに建築技師となり、その手になる兄フォードルの『回想』が、一九三〇年になって有名な地理学者の息子によって出版された。兄弟の名前を連記する際の句読点は省略されている。

一八三三年(十二歳)

二 母マリーヤへ

へモスクワ、一八三三年八月二十三日

おなつかしいお母さん!

ぼくたちはもうみんな大好きなお母さん⁽¹⁾無事にお父様のところへもどってきています。お父様もニコレンカ⁽²⁾もやはり元気です。お母さんもどうかお元氣でお暮らしになりますように。早くこちらへいらしてください、なつかしいお母さん、残りの小麦の刈り入れにもたいして手間はかからないと思いますし蕎麦⁽³⁾のほうもすこしずつもう取り入れが進められていることと思います。ではなつかしいお母さんあなたのお手にうやうやしく接吻してこれで失礼することにいたします。いつまでもあなたの従順なむすこである

フョードル・ドストエフスキー。

(1) フョードルの母、旧姓ニエチャイェヴァ(一八〇〇—三七)。商業貴族とも言うべき旧家の出身で、一八一九年にミハイルと結婚、ミハイル、フョードル、ヴァルヴァーラ、アンドレイ、ヴェーラ、リニボーフィ、ニコライ、アレクサンドラの四男四女をもうける。うちヴェーラとは双生児

のリニボーフィは生後まもなく死亡。異常性格者の夫によく仕え、一家の柱として子供たちの愛を一身に集め、ドストエフスキー兄弟の文学的才能をはぐくみ、肺結核のために若くしてたおれた悲劇の主人公。幼年時代はこのよき母親を失ったことはドストエフスキー兄弟にとっては大きな不幸であった。詳しくはアンドレイ・ドストエフスキーの『回想』参照のこと。

(2) 文法的に正しい句読点を無視しているのがドストエフスキーの書簡の特徴である。

(3) 正しくはニコライ・ミハイロヴィッチ・ドストエフスキー(一八三一—八三)。フョードルの弟、兄弟の中では出来そこないの部類に属し、建築学校を卒業し一人前の技師になってからもアルコール中毒と意志薄弱のためにつねに兄たちの重荷になっていた。だがフョードルはこの弟を特に愛し、一八六一年以後は病氣のために職を失ったこの弟の面倒を見つづけた。

一八三四年（十三歳）

三 母マリーヤへ

へモスクワ、一八三四年春（？）へ

なつかしいお母さん！

あなたがここからお発ちたになつたあとなつかしいお母さんぼくはとても淋しくてたまらなくなりいまでもなつかしいお母さんあなたのことを思い出すとなんととも言えない悲しい気持ちになつてどうしてもそれを追いはらうことができずぼくがどんなにあなたに会いたがつているかその喜びの瞬間をどんなに待ちこがれているか知つていただけたらと思います。あなたのことを思い出すとぼくはそのたびにあなたの健康のことを神様においのりしています。無事にお着きになつたかどうかなつかしいお母さんどうぞお知らせくださいそしてぼくのかわりにアンドリニューシャ（イの愛称）とヴェーロチカ（ヴェエラ）の愛称に接吻してやっってくださいあなたのお手に接吻してあなたのいつまでも変わらない従順なむすこ

エフ・ドストエフスキー。

（1） フョードルの妹（一八二九—九六）。十七歳でイワノフと結婚、幸福

一八三五年（十四歳）

四 母マリーヤへ

へモスクワ、一八三五年五月九日

なつかしいお母さん！

ぼくたちがおかげさまでみんな元気で無事に暮らしていることを手紙でお知らせするのはこれでもう三度目になります。きょうは木曜日ですが祭日ですのでお父様がぼくたちを家へつれもどってくださいました。それでぼくたちはあなただけを除いてなつかしいお母さんみんな顔をそろえたわけです。ぼくたちがこれからもまだ長いことあなたと離ればなれでなければならぬのは残念です。こんな時間は一刻も早く過ぎ去ってもらいたいものです。こちらはひどくお天気がわるくそちらもやはり同じことだろうと思いますのでお母さんもとても春をお楽しみになるのではないかと思います。お天気のよくないときの田舎暮らしは淋しくてたまらないことでしょう。ヴェーロチカ〔も〕ニコリーンカももっと淋しがっていることと思いますしニコリーヤ（ニコライ）も前によくぼくとやったように〔ぼくと〕お馬ごっこがやれないわけですからね。アリオーナ・フロロヴナも気の毒にあんなひどい病気になってかわいそうでなりません、取りつかれた肺病のため

にまもなくこの世からすっかり消えて行ってしまふことでしょう。ではお母さんさようなら。まもなくお目にかかれるものとそれを楽しみにいつまでも変わらぬあなたの従順なむすこフョードル・ドストエフスキー。

P・S・（伸）
ヴェーロチカとニコリーンカに接吻するのを忘れな
いでください。

(1) ミハイルとフョードルは一八三四年からチエルマークの寄宿学校に入られていたので、土曜日の午後には帰宅して月曜日の朝また帰校するという生活を送っていた。この祭日はニコライ一世の名の日の祝い。

(2) テキストではドストエフスキー自身が抹殺した字句はすべて「」でつつまれている。

(3) ドストエフスキー一家にその生涯を捧げた忠実な老婢。一八三三年に火事で領地の村が丸焼けになった際、アリオーナはその貯金を残らず主人のために提供したと言われている。詳しくはアンドレイの『回想』及び『作家の日記』（一八七六年春）を参照のこと。

五 母マリーヤへ

へモスクワ、一八三五年五月十六日

おなつかしいお母さん！

ほんの教行でもこうしてあなたと（お手紙）でお話しできるのをぼくたちは心から嬉しく思います。きょうぼくたちはお父様のところで一日を過ごしました。ぼくたちは伯母さんの家へ行ったりしてそこでかなり楽しい時をおくりました。ヴァーリンカはぼくたちが代わって

手紙の中であなたのお手に接吻するようにと、頼んでいました。まもなく試験がはじまりますのでぼくたちはいまその準備をしています。それが終わりましたらすぐにまたお目にかかれるようになるかもしれませんが、おね。おね！ あなたをまたぼくたちの胸に抱きしめるときがきたらどんなに嬉しいことでしょう。ではさようなら、なつかしいお母さん、この世のありとあらゆるよいことがあなたの上にありますように、ぼくたちはいつまでもあなたの従順な子供たちです。

ミハイル、フォードル、アンドレイ・ドストエフスキー。

ぼくたちに代わってヴェーロチカとニコーレンカに接吻してやってください。

(1) 母アンナの妹アレクサンドラ・クマーニナ(一七九六一—一八七二)。

その夫アレクサンドルは父ミハイルの死後、一家の後見人となった。

(2) ヴァーリンカ(ヴァルヴァーラ)はクマーニナ家のすぐ近くの寄宿学校に学んでいたので、日曜祭日にもその家に泊まって両親のところへ帰らないことがたびたびあった。

六 母マリーヤへ

〈モスクワ、一八三五年五月十九日〉

おなつかしいお母さん！

せめて何行かでもこうしてあなたにお手紙が書けるのを、心から嬉しく思います。あなたのお手紙はぼくたちにとってとても楽しいもの

です。なつかしいお母さんがお元気でいらっしゃるかどうかぼくたちと離れて⁽¹⁾どんなふうにも暮らしていらっしゃるか、それが知りたくてぼくたちはみんなお母さんからのお手紙を首を長くして待ちがれています。ぼくたちはいまお父様といっしょに郊外のマリイナの林へ出かけていやになるほど遊んできたところです。きょうは伯母さんがヴァーリンカをつれて家においでになりましたが、ヴァーリンカはあなたのお手に接吻すると言っておりました。そこでぼくたちもヴァーリンカといっしょにみんなあなたのお手に接吻いたします。あなたの従順な子供

ミハイル フォードル アンドレイ・ドストエフスキー。

P・S・ヴェーロチカとニコーレンカに接吻を送り、ふたりの健康をいります。

(1) 勤務の都合で父ミハイルはモスクワを離れられないことが多かったので、母マリーヤがときどき別居して領地の管理にあたっていた。

七 母マリーヤへ

〈モスクワ、一八三五年五月二十六日〉

おなつかしいお母さん！

創造主のありがたいご配慮によってお元氣にお暮らしのよしとても嬉しく思います。この二日、つまり三位一体主日と聖霊降臨日は、ぼくたちはお父様の家で過ごすこととなります。こちらのお天気はそち

らでもやはり同じだと思えますがこのところずっと交わりやすいお天気ばかりがつづいていますけれども、それでも土曜日ときょうはすばらしいお天気です。もっとも大雨がふりましたがそれも夜のうちに雨があがってからはすっかりすがすがしくなりすばらしいお天気になりました。でもそれはいつまでもつづくような雨ではありませんでしたので、そちらではこんな雨はなかっただろうと思います。ぼくたちの試験は去年と同じように六月の末にあることになっていきます。そんなわけで近いうちにお目にかかれるという希望も失われることになりません。お手紙によれば子供たちも楽しく暮らしていてニコリヤなどはかえってすこし肥ったそうですね、なにしろいまはお天気のいちばんいいときですからあの子もいとお天気にめぐまれてきれいな空気をたっぷりと吸えるわけですからね。ぼくのかわりにみんなに接吻してお利口にしているようにぼくたちもまもなくみんなのところへ行くからと言ってやってください。ではなつかしいお母さんもうなにも書くことがありませんからこれで失礼いたします。あなたの従順なむすこ

フヨードル・ドストエフスキーおよびアンドレイ・ドストエフスキー

(1) 三位一体主日は復活祭後八番目、聖霊降臨日後の最初の日曜日、聖霊降臨日は復活日の四十日後にあたる昇天日から十日後の日曜日。

(2) テキストによれば否定詞がふたつ重なり、「こんな雨はなかったとは思いません」となっているが、誤りと思われるので「なかったと思います」にしておいた。

八 母マリーヤへ

〈モスクワ、一八三五年六月二日〉

なつかしいお母さん!

お手紙によればありがたいことにお元気なご様子、心から嬉しく思います。試験のことですがこれはおそらく六月二十四日に行なわれることになるでしょうそれでぼくたちはいまその準備をしています。こちらはきのうもきょうもすばらしいお天気です。そこで、これからお父様といっしょに散歩に出かけるところです。ではさようなら大事な大事なお母さんあなたのご健康をおいのりしあなたのお手に心ゆくまで接吻してあなたの従順な子供

ミハイル フヨードル アンドレイ・ドストエフスキー。

ヴェーロチカとニコリンカに接吻してやってください。

九 母マリーヤへ

〈モスクワ、一八三五年六月二十三日〉

おなつかしいお母さん!

ほんの二、三行ながらあなたのご健康と無事(息)災をおいのりする機会を与えられたことを、非常に嬉しく思います。ぼくたちのほうは、おかげさまで、みんな元気です。いまぼくたちはこの金曜日から

もうお父様のところへ帰ってきて、月曜日に行なわれるはずの試験を待っています。ぼくたちに代わってニコリンカとヴェーロチカに接吻してやってください。ではさようなら、大事な大事なお母さん、あなたのお手に接吻していつまでもいつまでもあなたの従順な子供

ミハイル フォードル アンドレイ・ドストエフスキ⁽¹⁾。

(1) 以上九通の手紙のうち子供たちの連名になっているものは長兄ミハイルが代表して書いたものと思われる。なお母親宛ての手紙はすべて父親の手紙に同封されて母のところへ送られた。

一八三七年(十六歳)

二〇 父ミハイルへ

ペテルブルク、(一八三七年)七月三日
なつかしいお父様!

お手紙たしかに受け取りました。お手紙をいただくことなどめったにないことですが、そのかわりこうしたお手紙はぼくたちにとって実に貴重なものです。何週間も何週間もそれを待ちこがれているのですから、それだけにそれを受け取るときの嬉しさといったらありません! お父様のお手紙のほかにぼくはクドリヤーフツエフ⁽¹⁾からもかなりちよくちよく手紙をもらいます。お父様はお元気なご様子で——まことにありがたいことです! お父様のお仕事がうまくはかどりますように、ただひたすら神様においのりいたします! いいえ、神様はきつとそうしてくださいませ、神様はぼくたちにもきつとお恵みをもたらしてくださいませ、いまままでだつてぼくたちのすることをなんでも護^{まも}っていてくださったことは明らかですものね。神様の思召^{おぼしめし}に望みをかけることにいたしましたしょう——そうすればなにもかも順調に進むに相違ありません。こちらのことを申し上げれば、ぼくたちは、おかげさまで、元氣です——これはまことに当り前のこ

とですが。ぼくたちのほうは万事〔順調に〕すらすらとはこんでいます。つまり幾何や代数を勉強したり、野外堡壘——多面堡や稜堡やらの図面をひいたり、あるいはペンで山の画を描いたりというわけです。コロナード・フィリップovich^チはぼくたちにはたいへん満足で特に目をかけてくれます。ぼくたちのために銀貨で三十ルーブリもするすばらしい器具一式と、それから十二ルーブリも出して給具^{えんぐ}を買ってきてくださったほどです。これがないことにはまったくどうにもならなかったのです。それと言うのも図面はいつも絵具で彩色することになっているからで、「そして」それなのに、今度の仲間の連中はみんなおそろしくけちで、ぼくたちにとでも貸してくれそうにもないからです。そのほかにはお金のかかるものはありません、せいぜい手紙とか製図用の紙代ぐらいのものです。と言うのはもうそろそろ試験に備えて製図をはじめることになっているからです。ところがこれは非常に重要視されていて、及落になによりも影響するものなのです。今週からぼくたちは砲術の勉強をはじめました。これもやはり二学年にはいるためにはぜひ必要なものなのです。これで、なつかしいお父様、準備なしに学校へ入学できるものかどうかよくおわかりになったことでしょう！

本はきょうやつと郵便でとどきましたのでそれでお父様のお手紙にそのときすぐにお返事が出せなかったわけです。本を送ってくださいましたことに厚く、厚くお礼を申し上げます！本はそっくり無事にとどきました。そのお礼にあなたのお手に何度も何度も接吻いたします！先週ぼくたちは以前の学友のゲルネルとヴェッセリに会いました。ふたりはピチュエルゴフの野営地へ出かけることになったので、コロナード・フィリップovichにお別れの挨拶にきたのです。きょうは

K・F^(コロナード・フィリップovich)の誕生日です。いまのところはすばらしいお天気です。あしたもおりとおりで変わらなければいいと思います。それで、もしもよいお天気でしたら、シドローフスキー^シが来ることになっていますのでいっしょにペテルブルクの町を歩きまわって名所を見物するつもりです。ついでにこの男のことをちょっとひとこと。実は彼に頼まれたのですがお父様がこの男の手紙と農業新聞をお受け取りになったかどうか手紙できいてみてほしいとのことでした。彼はお父様に敬意を表しているとのことです。

今度は自分のことです。発疹は直りかけているようですからおそろしく試験までにはすっかり消えてしまうことでしょう。それからもうひとつのほうですが、これはまだ誰も気がついていません。ですからこのことについてはまったくご安心ください。K・Fの塾から学校^(陸軍工科)へはいれなかった者がいたなどという例は、いままでにまだ一回もありません。コロナード・フィリップovichからお父様に敬意を表するとのことでした。もう十一時です。そろそろやすまなくてはなりません！ではおやすみなさい！さようなら。

心からの尊敬とむすこととしての信服の念をささげてお父様の子供

ミハイルおよびフョードル・ドストエフスキー。

ぼくたちに代わってアンドリユーシャ、ニコリヤ、ヴェーロチカ、それからとりわけサシニールカに接吻してやってください。

お金のことについてはコロナード・フィリップovichに話してみました。彼は自分としてはそんなことは気にしていないと言われました。そしてそうした場合にはよくあることです——いろいろとお世辞めいたことを並べ立てたのです。それにほかにどんなことを言えばよ